

1

(1)

(2)

(3)

(4)

① 数とワーキングメモリ

<ルール説明文>

今から数字を言います。それを覚えてください。15秒後に「書いてください」と先生が言うので、言われた数字を紙に書いて答えてください。（もちろんメモをしてはいけません。）

問題

- (1) 2 3 4
- (2) 9 7 5
- (3) 6 0 1
- (4) 2 4 6 8

ポイント 4つの数字を記憶できるようになるう！

4桁の数字の記憶に挑戦してもらいます。

3桁からスタートし、徐々に4桁まで安定して覚えられるようになりましょう。

指導上の注意

- ・ 例えば、問題が「1 2 3」であれば、「ひゃく にじゅう さん」と読むのではなく、「いち、に、さん」というように、数字を1つずつ読むようにしてください。
- ・ 読んだ後の待ち時間 15 秒は目安の時間ですので、お子様の様子を見て、短くしても構いません。
- ・ 数字の個数を増やしたり、減らしたりすることで、難易度を調節することができます。子供の様子を見て、頑張れば覚えられる程度の個数で出題してください。
- ・ 正解不正解よりも、覚えようと努力することが大切です。間違えていたとしても「おしかったね、2と8は書けていたからすごいと思うよ。」「数字がたくさんあって大変だったけど、最初の5だけは忘れなくてえらかったね。」とできていたところに着目して褒めてあげると効果的です。

2

(1)

(2)

(3)

(4)

② 音の識別と記憶

<ルール説明文>

今から言葉や文を読みます。それを覚えてください。10秒後に「書いてください」と先生が言うので、言われた言葉を紙に書いて答えてください。答えを書く時、漢字は使ってはいけません。

問題

- (1) みぎて
- (2) ふでばこ
- (3) ねこぜ
- (4) てんもんがく

ポイント

「がぎぐげご」のような濁音が使われている言葉を聞き取り、記憶するという練習を行います。(次回は濁音が使われている言葉が含まれる文の記憶を行います。) 点のつけ忘れや、聞き間違いに気をつけて、正確に聞き取り書き取れるようになりましょう。

指導上の注意

- ・ もし答えを間違えてしまった場合は、「おいしい！ちょっと違うところがあるよ。もう1回読んでみるから、どこを直した方がいいか考えてみて。」と伝え、もう1度同じ言葉を読み上げてください。
- ・ 音と文字が一致していない子供の場合、自分の間違いに気づくことができません。その場合は(例えば問題が「とかげのしっぽ」であれば)「書いてくれた答えを読んでみるね。これだと『とかげのしっぽ』になっちゃうよ。『しっぽ』はどう書いたらいいと思う？」というように語りかけ、文字と音が一致していないことに気がつかせてあげてください。
- ・ 授業での聞き漏らしや聞き間違いをなくすことが目標なので、読み上げるスピードは可能な限り標準の話言葉と同じスピードにしてください。ただし、慣れるまでは子供の聞き取りに無理のない範囲までスピードをおさえても構いません。